

新型コロナウイルス感染予防のための  
大田区スポーツイベントガイドライン

第1版

令和2年7月29日

観光・国際都市部スポーツ推進課

はじめに

「大田区スポーツイベントガイドライン」は、大田区が主催するスポーツイベント（以下、「イベント」という。）を実施するに際し、新型コロナウイルス感染症を予防し、区民が安全かつ安心して参加できるよう、スポーツ庁の定めた「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（以下、「スポーツ庁ガイドライン」という）や公益財団法人日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協会の定めた「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（以下、「日本スポーツ協会等ガイドライン」という）、また東京都の「新型コロナウイルス感染症を乗り越えるためのロードマップ」（以下、「都ロードマップ」という）等に基づいた上で、大田区としての基準や留意すべき基本的な事項をまとめたものである。

主催イベントの中で、競技の内容や種目により特殊性のあるものについては、スポーツ庁ガイドラインや日本スポーツ協会等ガイドラインの他に、各種競技団体の定めた指針等にも準拠して、個別に判断することが必要となる。

また、区民団体等が実施するスポーツイベントについても、ガイドラインを参考として提供する。

なお、ガイドラインは今後の社会状況の変化を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

以下、主催者として、イベントを実施するために計画段階から、終了後までの間で、どのような内容に留意して進めていくのかその手順を示していく。

## 1 実施計画（案）の作成

主催者として、安全にイベントを実施するには、事前にイベントの企画をし、実施計画（案）を策定する必要がある。イベントには、その目的があり、その目的に沿って、事業の内容を企画し、参加者を想定し、施設を用意する。今までのイベントの計画内容に加え、主催者には、新型コロナウイルス感染を予防し安全にイベントを実施する責務が生じる。そのため、スポーツ庁ガイドラインや日本スポーツ協会等ガイドライン、都ロードマップ、各種競技団体の定めた指針などを予め参照し、計画的に安全対策を講ずる必要がある。

### （1）実施計画（案）の作成

イベントの内容と新型コロナウイルス感染症の予防の両面を組み込んだイベント実施計画（案）を作成する。

#### 1) 実施計画（案）に盛り込むべき項目

- ① 目的
- ② 予定日及び時間（来館（来場）、内容、退館（退場）まで、余裕をもたせた時間の設定をすること）
- ③ 会場レイアウト図の作成  
入退場口の設定、受付及び混雑時に並ぶスペースの設置など、イベント会場のレイアウトを作成する。レイアウト図を作成し、図上にスタッフの配置や三密を回避するように参加者の動きなどを具体的に想起し、問題箇所などをあぶり出すことができる。（４）参照。
- ④ イベントの内容  
種目の選定する際に、施設の特徴、設備・用具の有無などを踏まえてイベント内容を固めていく。種目によって参加者同士の接触が想定される場合には、それを回避する方策なども検討し、特に感染予防に注意すべきである。  
競技の特性から接触が避けられず、感染の可能性が高い場合には、接触プレーが生じないようなルール変更を行うことも検討する。それでも、感染の危険性が高い場合には、その種目を実施しないことも含め検討する。
- ⑤ スケジュール  
個々のイベントごとのスケジュールを設定する。イベントそのもののスケジュールに加え、選手・参加者の交代、換気・消毒時間なども組み込んだスケジュールとすること。
- ⑥ 参加予定者  
年齢層（こども、成人、高齢者）、障がい者、スポーツ経験者・初心者、家族の参加、参加者に観客を含むかなどイベントの特性に配慮して参加者を決めていくこと。  
なお参加予定者には、こどもや高齢者、障がい者などへの付き添いや介護者なども含めます。
- ⑦ 募集方法  
事前予約、当日申込、自由参加など、参加者に募集方法を周知しておく。  
応募書類の必要項目については、３つのポイントがある。
  - ・参加者が、個人情報を出すことに同意してもらうこと。
  - ・参加者が、体調管理を図り、参加条件に協力いただく。
  - ・個人情報の取扱い等に同意し、署名をもらうこと。応募書類についてひな型を示す。
- ⑧ 感染予防対策  
主催者は、イベント全体を通して、感染予防対策を講ずる責務がある。受付、競技中・待機中・イベント終了までを通しての三密を防止しなければならない。

特に、三密の恐れの高いトイレ、更衣室、シャワールームの利用などには、利用制限、利用上のルールなどを定めておく。制限を加えるなどしても、三密が防げない場合には、更衣室、シャワールームなどを使用禁止とする判断もあり得る。

また、スポーツ器具等の消毒、イベント内での飲食の取り扱いなどについてもルール化しておくことが重要となる。

#### ※ 飲食の取り扱い

スポーツ庁ガイドライン〔3 社会体育施設の再開時の感染防止策について (5) 利用者が運動・スポーツを行う際の留意点 ③その他〕に飲食を取る際の注意点が示されている。

現時点での大田区の飲食の取扱いは、参加者に対して行う食事の提供や飲食店の出店を禁止している。

また、イベント期間中に水分補給のためスポーツドリンク等を飲む場合、アリーナ内で飲むことが禁止されるなど、飲める場所や使える容器が施設のルールで決まっている場合がある。主催者はルールに従うよう、参加者に指導を行う。

#### ⑨ 実施体制

従来のイベント実施体制に加え、⑧の感染予防対策に必要なスタッフを確保する必要がある。また、スタッフに新型コロナウイルス感染症防止の重要性を意識させ、どのような役割を担うのか事前に教育しておく必要がある。

#### ⑩ 予算

感染症予防のための必要経費も試算し、確保しておく必要がある。

- ・ 物品・消耗品類：フェイスシールド、マスク、手袋、消毒液など
- ・ 人件費：スタッフの謝金

#### (2) 施設との調整

主催者は(1)で示した内容を盛り込んだ実施計画(案)ができた段階で使用する施設と打合せを行い、主催者が策定した実施計画(案)どおり行うことができるかを確認しておく必要がある。特に、新型コロナウイルス感染防止のため、施設側の責任として実施していることを確認し、主催者として実施しなければならないことを明確にしておくことが重要となる。

以下、施設に確認すべきことを列挙する。

##### 1) 施設に確認する項目

- ① 施設の利用可能人数(施設全体、各部屋、更衣室、シャワールーム等)

- ② 施設側で定めているルールの確認（受付用のテーブル・椅子、トイレ、更衣室の使用方法など）
- ③ 換気・空調設備の確認（空調の設定温度、運転時間、窓やドアの開閉による換気ができるか、施設側で行っていることは何かを確認）
- ④ 消毒に関して（施設が用意している消毒用品、その数、設置場所、主催者の実施すべき役割の確認）
- ⑤ 主催者の作成した実施計画（案）を提示し、修正すべき点があるかの確認
- ⑥ その他、新型コロナウイルス感染予防について注意すべきことの確認

### （3）施設面積から参加人数を算定する

会場となる施設と打ち合わせをしたことで、実施計画（案）を修正し、実施計画を策定していかなければならない。そのため、参加者数を定めていかなければならない。〔（2）1）の①〕で、施設としての利用可能人数が判明した。

その上で、実際に行うイベントの特徴に合わせて具体的に参加人数を定めておく必要がある。使用する施設の面積（実質的にイベントを実施するスペース）から、参加可能人数を把握する計算式を用いて算定する（以下、①）。また、東京都のロードマップの基準にも合致しているかを確認しておく必要がある。（以下、②）その上で最終的には、主催者の責任で参加人数を決定しなければならない。

#### ① 利用可能な上限人数の求め方

利用可能な上限人数を算定する際は、他の人との距離は2 mとることが奨励されているため、左右・前後2 m確保することを想定すると一人あたりの利用面積を4 m<sup>2</sup>とし、使用施設の床面積や運動スペースの面積を4 m<sup>2</sup>で割り返して利用可能人数を算定する。

#### ② 収容定員のある施設については、都ロードマップの基準に従い、収容定員の半数以内とされている。

【新型コロナウイルス感染症を乗り越えるためのロードマップ（東京都）による休業要請の緩和のステップ（施設別）のイベントの上限人数】

	屋内	屋外
6月19日以降	1000人以下、かつ収容定員の半分以下	1000人以下
7月10日以降	5000人以下、かつ収容定員の半分以下	5000人以下
感染状況を見つつ8月1日以降を目途	収容定員の半分以下	

●参加者数を定めるフロー

- ① 区施設で定めている利用者数……………令和2年7月15日現在
  - ・大田区総合体育館 メインアリーナ 450人以下  
サブアリーナ 150人以下
  - ・大森スポーツセンター アリーナ 400人以下
  - ・大田スタジアムの観客席数（観客席数 3,223人） 600名以下
- ② 施設の面積による計算式
  - ・大田区総合体育館 メインアリーナ  $1,824 \text{ m}^2 \div 4 \text{ m}^2 = 454 \text{ 人}$   
サブアリーナ  $646 \text{ m}^2 \div 4 \text{ m}^2 = 162 \text{ 人}$
  - ・大森スポーツセンター アリーナ  $1,620 \text{ m}^2 \div 4 \text{ m}^2 = 405 \text{ 人}$
- ③ 都ロードマップの基準
  - ・5000人以下、かつ収容定員の半分以下  
大田区総合体育館のメインアリーナ・サブアリーナ、大森スポーツセンターのアリーナには定員の考え方はない。よって、①～③の基準をすべてクリアする数値は、
  - ・大田区総合体育館 メインアリーナ 450人以下、サブアリーナ 150人以下
  - ・大森スポーツセンター アリーナ 400人以下 となる。
- ④ ①～③の基準を基に、実際のイベントの特徴に合わせて、主催者で参加者の上限を決定する。

(4) 安全に対応できるレイアウトの作成

参加者は、イベント開始の1時間程度前から、施設に集まる傾向がある。主催者は、イベントを実施する場合に、開始前、イベント中、イベント後を通してトータルで安全性を担保する必要がある。そのためには、施設との打ち合わせで把握した情報を元

に、参加者が集まり始める時間からイベント終了まで、受付や待機場所、イベント会場、休憩スペースなどで三密とならない環境を用意するため具体的なレイアウト図を作成する。

#### ○レイアウト図作成上のポイント

##### ① 受付

- ア 参加者数に合わせた受付場所、個数の設置
- イ 会場・施設に合わせた参加者の並びせ方
- ウ スタッフの配置と人数（受付、案内、検温・消毒）
- エ 込み具合や問い合わせなどに合わせて動けるスタッフの配置

##### ② イベントスペース、試合会場

- ア 余裕を持たせたイベント会場のゾーニング・配置
- イ 参加者同士が **2m** 以上離れていることを示す
- ウ 参加者の動きに合わせた動線がわかる表示
- エ 必要箇所に配置されるスタッフの表示
- オ 施設や用具を消毒等するためのスペースの確保

参加者同士が常に **2 m** 以上の間隔を持たせるためにどのような動線をとるか、また、スタッフの配置が必要となる場所などが具体的に把握できてくる。

レイアウト上、三密が防げない、防ぎにくいと思われる場所は、利用制限や立ち入り制限を行うか、スタッフにより誘導する方法などを検討する。

別添、「レイアウト図」を参考のこと。

#### (5) 実施方法の工夫

厚生労働省の「新しい生活様式」の娯楽・スポーツの実践例に「狭い部屋での長居は無用」とされている。イベント会場は、狭くはないが、開催時間中に多くの参加者が集まる可能性が高いため、イベントにおいても、時間短縮をするなど、三密を防止する方法を事前に検討しておく。

一例として、野球の試合であればイニング数を減らす、体験型イベントであれば、体験時間を区切って実施するなどが考えられる。その他にも、講習時間や待機時間を短くすることで滞在時間を減らすことなども考えられる。

その際、短い時間であっても十分に楽しめる内容にするため、プログラムを精査し参加者の関心が高い内容のみにするなど、プログラムに工夫を凝らすことも重要となる。

#### (6) 新型コロナウイルス感染防止のために

主催者は、スポーツ庁の定めた「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」、3「社会体育施設の再開時の感染防止策について」の(4)「施設管理者が準備等すべき事項」を「施設管理者又は主催者が準備等すべき事項」と読み替え、感染防止を講じなければならない。

3「社会体育施設の再開時の感染防止策について」の(4)「施設管理者が準備等すべき事項」は、別紙のとおり。

## (7) 参加者の募集方法とその手続き

参加者数、参加者の属性を定めたのちに、募集方法を検討する。

### 1) 参加者の募集

参加者に上限を定めて実施する場合には、事前の申し込みが必要となる。参加者が定員を上回ることはないと予測される場合には、当日の自由参加方式を採用し、事前の申し込みは不要となる。いずれも、イベント当日に混乱を生じさせないように実施できるかを見極め、募集方法を定める必要がある。

### 2) 募集の際の周知

スポーツイベントの参加者を募集するための広報を行う場合に、新型コロナウイルス感染防止のために、「当日イベントに参加できない場合」及び「参加者に協力を求める事項」を事前に参加者へ周知し、確認の上で、参加の判断をしてもらう。(スポーツ庁の定めた「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」、3「社会体育施設の再開時の感染防止策について」の(1)「施設予約受付時の対応」を参照)

●「参加できない場合」は、ア～ウのとおり。「参加に協力してもらう事項」は、エ～コのとおり。

ア 体調がよくない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)

イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われている人がいる場合

ウ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要されている国、地域への渡航歴又は該当在住者との濃厚接触がある場合

エ マスクを持参すること(受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をしている際にマスクを着用すること)。

オ こまめな手洗いアルコール等による手指消毒を実施すること。

カ 他の利用者、施設管理者スタッフ等との距離を確保すること。

キ イベント中は、大きな声での会話、応援等をしないこと。

ク 主催者、施設管理者が定めた措置を遵守すること。

ケ 各自のゴミ、ペットボトル・弁当ガラ・マスクなどは持ち帰ること。



コ 利用終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、施設管理者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

### 3) 参加票の提出

万が一感染症が発生した際に速やかに対応できるよう、参加者の名前や連絡先を主催者は把握しておく必要がある。日本スポーツ協会等ガイドラインに準じると、住所、氏名、年齢、連絡先（電話番号）が基本とされている。

イベント当日に申込書に上記の事項を記載・提出してもらう方法及び、フォーマットを提示しておき、事前に記入の上、当日提出してもらう方法がある。受付の時間を短縮するため、事前に記載した用紙を提出してもらうことが望ましい。

### (8) 実施計画の確定

以上、(1)～(7)までの内容を確定することで、実施計画とする。今後は、この実施計画に基づき、準備を進め、当日を迎えることとなる。

実施計画ができた段階で、関係者に計画内容を伝え、共有化を図っておく。

## 2 事前準備

事前に準備すべきこととして、以下 3 点がある。

### (1) 感染症対策のための物品・消耗品

- ・アルコール等の手指消毒剤（消毒薬など直前での用意が難しいものもあるため、施設と調整した上、余裕を持って準備しておく。手指消毒剤については、全ての出入口に設置する。そのほか、参加者にとって必要と思われる場所に十分な量を用意する。）
- ・受付用のアクリル板やビニールカーテン（施設で借りられるかの確認）
- ・スタッフ用のフェイスシールドやマスク、手袋（マスクは参加者にも配布する可能性もあるため多めに用意）
- ・感染防止のための、手洗いの励行や三密を避けるなどの注意事項の表示物の作成

### (2) 会場設営

安全にイベントを実施するために、参加者が集まり始める前までに、余裕をもって会場設営を行うようにしたい。参加者の滞留する場所に予め三密防止対策を講じておく必要がある。まず、受付にはアクリル板の設置、会場内には待機場所や立ち位置の表示、参加者が並ぶと思われる場所には、間隔を取って並べるための目印として 2 m ごとの表示をするなどの三密防止対策を講じる。レイアウト図参照。

さらに、受付付近に、参加できない条件、手洗いの励行や三密防止などの注意事項を示す掲示を行う。

観客席やグラウンドなどにあるベンチを使用する場合は、施設のルール等を参考に、間を開けて使用するよう表示等(座らせない席には、×印の紙を貼付する)を行う。

### (3) スタッフ教育

主催者は、事前に参加するスタッフの名簿を作成する。その上で、スタッフに、新型コロナウイルス感染防止の重要性を十分に理解させ、それぞれの役割を担えるように事前に説明をする。主催者がスポーツイベントを安全・安心にイベントを成功に導くためには、全スタッフが同じ意識をもって、参画することが重要となる。

スタッフは、フェイスシールド、マスク等を着用するほか、必要に応じてビニール手袋なども用意しておき着用する。

また、イベント開催中においても、三密が発生する恐れがある場所を発見したり、参加者同士で三密となるような状態が生じたときには、積極的に声掛けをするなど主催者側の一員としての意識を持って行動するよう、役割意識を醸成しておく。

## 3 イベント当日

### (1) スタッフミーティングの実施

イベント開始前のスタッフミーティングにおいて、スタッフ名簿により、出席状況を確認する。全スタッフに対し、感染症対策についての意味を再度確認しておく。イベント実施の注意点や個々の役割を徹底させる。

(スタッフミーティングにおいて確認すべき項目例)

- ① スタッフは、受付時及びイベント期間中は、フェイスシールドやマスクを必ず着用する。
- ② スタッフは、受付時及びイベント期間中において常に参加者の身体の容態に気を配り、体調がよくない参加者については、参加を見合わせるよう促すと共に、主催者に報告する。
- ③ スタッフは、受付時やイベント期間中において、参加者に対して三密を避けることやマスクの着用(運動・スポーツ中のマスクの着用は参加者等の判断による※)などの注意喚起を行う。
- ④ 定期的な会場巡回  
三密防止の声掛け。注意喚起。
- ⑤ 消毒等の励行

## (2) 受付での注意点

受付では間隔を示した目印に沿って並んでもらうよう、スタッフは誘導する。

屋内など一定以上の並ぶ場所が取れない場合は整理券を配布し、屋外など三密にならない場所で一時待機させるなどの対応を図る。

参加者に検温や手指消毒をしてもらう場合、受付前や施設の入口付近でその徹底を図る。

## (3) 参加できる条件

スタッフは参加者に対して、事前に周知した項目を再度確認してもらう。

### ① 参加を見合わせる要件と協力を求める事項

当日、次の要件を確認し該当する場合は参加を見合わせていただく。

ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）

イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われている人がいる場合

ウ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要されている国、地域への渡航歴又は該当在住者との濃厚接触がある場合

### ② マスクの持参（参加受付時や着替え等スポーツを行っていない際や会話をすすめる際にはマスクを着用すること。）。持参しなかった参加者への配布。

### ③ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施。

### ④ イベント中に大きな声での会話、応援等の禁止。

### ⑤ 各自のゴミ（ペットボトル・弁当ガラ・マスクなど）を持ち帰ること。

### ⑥ 他の利用者、施設管理者スタッフ等との距離を確保すること。

### ⑦ 主催者、施設管理者が定めた措置を遵守すること。

## (4) 参加者名簿

感染症が発生した際に速やかに対応できるよう、主催者は参加者の氏名や連絡先を把握する。日本スポーツ協会等ガイドラインに準じて、氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）を基本とする。

受付の時間を短縮するため、事前に記載した用紙を提出してもらうことが望ましいが、その場で記入させる場合は、参加者同士を 2 m 以上離れた位置で書ける記載台を用意する。筆記具については、使用された都度、こまめに消毒をすること。

個人情報については、取扱いに十分注意しながら、少なくとも 1 か月以上保存しておき、万が一参加者が発症したとの報告があった場合は、速やかに関係機関等に報告し、感染拡大防止対策に協力する。

## (5) イベント実施時の注意点

実施計画や各ガイドラインに従い、イベントを実施する。

- ① 屋内施設については施設管理者と協力し合い、換気設備を適切に運転することに加え、可能な限り窓やドアを開ける。
- ② 人と人との十分な距離を確保（約2m）するため、スタッフが立ち位置を指示し誘導等を行う。  
更衣室・待機スペースの使用も三密にならないよう、スタッフが規制を行う。
- ③ 使用する施設や貸出備品等の消毒を徹底する。（ドアノブ、ロッカー、テーブル、イス等も含める）  
なお、その都度消毒できない用具を使用する競技においては、参加者の手を十分に消毒する。または手袋を使用させる。参加者の使用した手袋は、使い捨てを徹底する。

#### （6）その他注意事項

夏季における熱中症対策など、厚生労働省並びにスポーツ庁等からの注意喚起に従う。

#### 4 イベント終了後

イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症したと報告を受けた場合は、主催者は関係機関に報告し必要な対策について確認する。また施設やスタッフとも連携し、感染拡大防止対策を図る。

保存している参加者名簿を保健所に提供するなど感染拡大防止に協力する。

#### 結びに

大田区は、平成24年6月に、スポーツ健康都市宣言を行った。区民がスポーツを通じて健康で豊かに暮らし、まちが賑わいと活力を増していくことを願っている。新型コロナウイルス感染により、外出自粛などが求められておりますが、そんな中であっても、健康的な暮らしを送るためには、運動・スポーツにより身体・精神の両面から、免疫力を高め、健康を維持していくことの重要性が叫ばれている。

「大田区スポーツイベントガイドライン」は、大田区が主催するスポーツイベントを実施するに際し、新型コロナウイルス感染症を予防し、区民が安全かつ安心して参加できるよう大田区としての基準や留意すべき基本的な事項をまとめたものである。

本ガイドラインで新型コロナウイルス感染防止対策を示したが、ガイドラインを運用する上で、最も重要となる2つの点がある。

第1に、主催者・スタッフが、感染防止対策の重要性を共有し、安全対策を講じ、イベントから感染者を絶対に出さないとする強い意識を持つことである。

第 2 に、参加者に感染防止の意義を伝え、協力する意識を持ってもらうことである。両者の協力なくして安全なイベントは行えない。

以上の点を踏まえて、本ガイドラインを活用し安全・安心なイベントを実施していただきたい。

# スポーツイベント実施計画書 (例示)

○年 ○月 ○日 作成

事業名	大田区区民スポーツまつり (ポッチャ体験会)					
目的	ポッチャ競技の体験を通じて、競技の楽しさを知り、ユニバーサルスポーツへの興味や関心を高める。					
主催・代表・担当者	主催 大田区 代表○○ ○○ 担当○○ ○○ 連絡先電話番号					
日時	令和2年 10月 11日 (月・祝) 8:20~11:30					
会場名	大森スポーツセンター、健康体育室B					
参加予定 参加数 90名 スタッフ 14名 合計 109名	内訳(スタッフを除いた数)					観客・見学
	子ども	成人	高齢者	障がい者	計	・家族付添 ( 30 ) 人 ・観客有 ( 0 ) 人 ・その他
	20人	60人	5人	5人	90人	
募集方法	■事前予約 □当日申込 □自由参加 事前予約期間9月14日~9月28日					
内容 種目	健康体操、子どもから高齢者まで、気軽にできるポッチャ競技の体験 指導員2名、○○スポーツクラブの健康体育士○○、○○					
イベント進行 スケジュール ・設営・受付時間 ・開始時間 ・イベントの進め方 ・終了時間、撤去	8:30 会場等設営 (換気窓開け・受付・掲示物・消毒剤設置・足元マーク付け・記載台鉛筆セット等) 8:45 受付開始、消毒、手袋配布 9:00 競技スタート 参加者20分毎の入れ替え制、1回18名×5回実施 各回終了後、換気、ドアノブ消毒 11:30 終了、室内・道具の消毒等点検 健康チェックシートを責任者に提出					
感染予防対策 ・健康確認方法 ・換気・消毒等の作業 ・消毒剤の設置数	○健康チェックシート、事前に配布HP掲出ダウンロード可能、当日分50枚、鉛筆18本 ○スタッフの健康チェックシート及び当日の体調確認 ○換気の確認 (空調設備・窓・ドアを開ける) ○三密防止、換気、マスク着用など注意喚起の掲示、距離確保の足元マーク ○消毒剤の設置 受付1台、終了後1台 ○使い捨て手袋配布 ○終了後ボール等の道具消毒					
実施体制 スタッフ(役割と人数)	責任者1名、受付対応 4名 受付列整理 4名 (車いすのタイヤを消毒) 室内誘導 4名					
予算 コロナ対策経費	計11,900円 アルコール消毒剤4500円 (500ml×3台×1500円)、使い捨て手袋1500円 (100枚入り×3箱×500円)、ふき取りペーパー600円 (100枚入り×3箱×200円)、ウェットティッシュ300円 (1箱)、マスク500円 (20枚入り×1袋×500円)、フェイスシールド4500円 (15人分×300円)					
レイアウト図添付 (□チェック)	■会場レイアウト添付 ■受付レイアウト添付					

# スポーツイベント実施計画書 (原本)

年 月 日 作成

事業名						
目的						
主催・代表・担当者	主催 代表 担当 連絡先電話番号					
日時	令和 年 月 日 ( ) : ~ :					
会場名						
参加予定 参加数 名 スタッフ 名 合計 名	内訳(スタッフを除いた数)					観客・見学
	子ども	成人	高齢者	障がい者	計	・家族付添 ( ) 人 ・観客有 ( ) 人 ・その他
	人	人	人	人	人	
募集方法	<input type="checkbox"/> 事前予約 <input type="checkbox"/> 当日申込 <input type="checkbox"/> 自由参加 事前予約期間 月 日～ 月 日					
内容 種目	内容 指導員 名					
イベント進行 スケジュール ・設営・受付時間 ・開始時間 ・イベントの進め方 ・終了時間、撤去						
感染予防対策 ・健康確認方法 ・換気・消毒等の作業 ・消毒剤の設置数						
実施体制 スタッフ(役割と人数)	責任者 名、受付対応 名 受付列整理 名 室内誘導 名					
予算 コロナ対策経費	計 円					
レイアウト図添付 ( <input type="checkbox"/> チェック)	<input type="checkbox"/> 会場レイアウト添付 <input type="checkbox"/> 受付レイアウト添付					

# 大田区スポーツイベント参加にあたっての同意書

本同意書は大田区主催(イベント名)を実施するにあたり、新型コロナウイルスの感染防止及び感染者が発症した場合に、区が関係機関に対して報告し、必要な措置を講じるために使用するものです。

本同意書は参加者1名ごとに記載していただきます。中学生以下のお子様を同伴される方は、合わせて記載していただいて結構です。

なお本同意書は、1か月間の保存期間経過後、実施者の責任において廃棄いたします。

大田区 観光・国際都市部 スポーツ推進課

参加日時 令和 年 月 日( ) 時 分～ 時 分(予定)

住 所

電話番号(もしくはE-mail)

氏名		年齢	当日体温	検温時間	平熱
フリガナ	.....				
氏名		歳	℃	時 分	℃
フリガナ	.....				
中学生以下の家族		歳	℃	時 分	℃
フリガナ	.....				
中学生以下の家族		歳	℃	時 分	℃
フリガナ	.....				
中学生以下の家族		歳	℃	時 分	℃

## 【確認事項】

イベント当日までの2週間において、次の項目に当てはまる場合は、参加できません。

- ・ 平熱を超える発熱状態である。
- ・ 咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状がある。
- ・ だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)を感じる。
- ・ 嗅覚や味覚の異常がある。
- ・ 体が重く感じる、疲れやすい等の感覚がある。
- ・ 新型コロナウイルス感染症陽性とされたものとの濃厚接触がある。
- ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる。
- ・ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある。

## 【遵守事項】

イベント参加中、以下の項目を遵守します。

- ・ マスクを使用します。(受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や、会話をする際にはマスクを使用します)
- ・ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施します。
- ・ 十分な距離(できるため2mを目安)を確保します。(障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。)
- ・ 利用中に大きな声で会話、応援等をしません。
- ・ 運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは極力行いません。
- ・ タオルの共用、飲料の回し飲みはしません。
- ・ 会場への入退出やイベント中は、主催者やスタッフの指示に従います。
- ・ 利用終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告します。

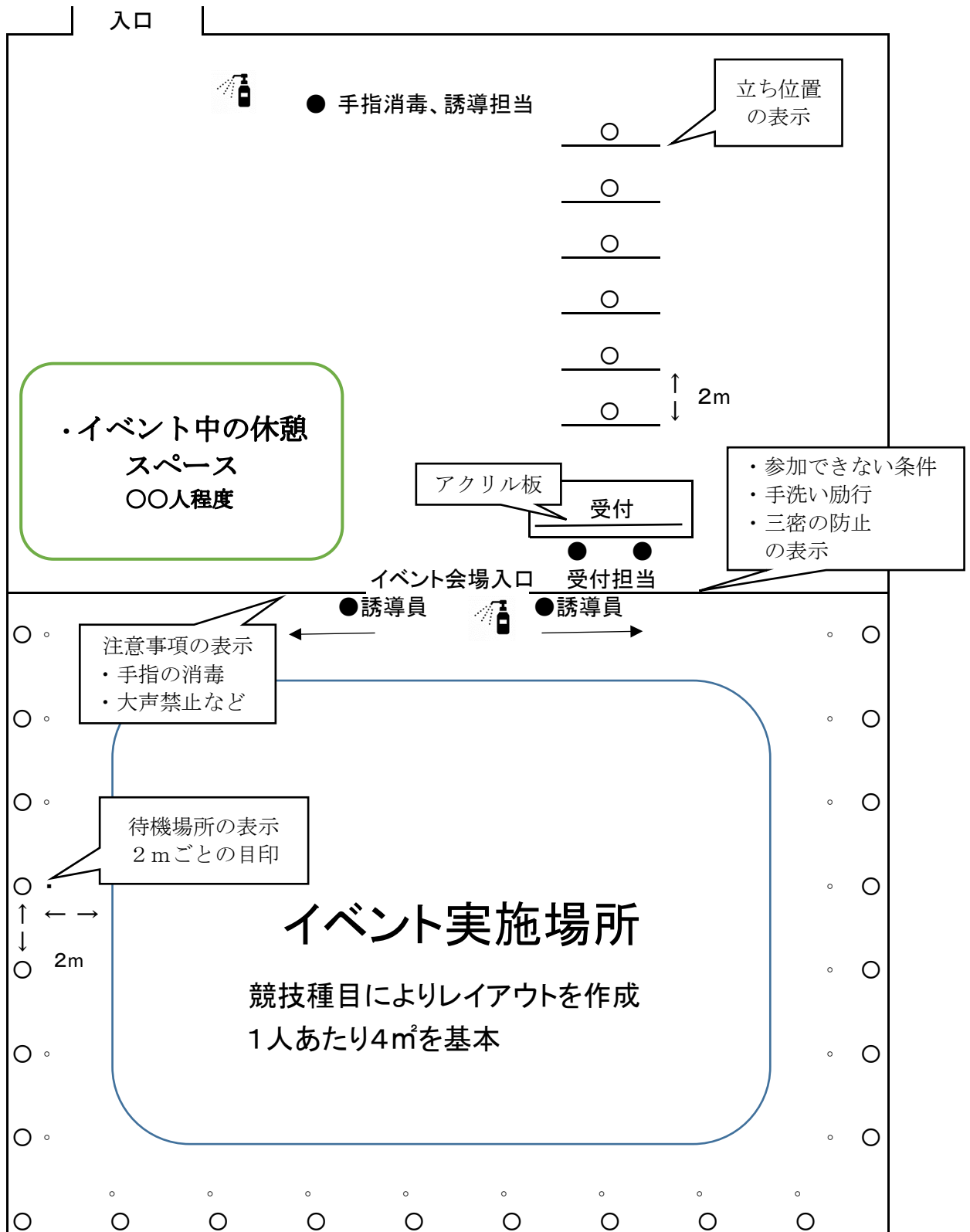
以上の内容について、確認し同意いたします。

令和 年 月 日

氏名



# 会場レイアウト図 (例)



●: スタッフの配置例。

競技種目に応じて、必要な場所にスタッフを配置する。

○: 参加者の配置場所。